

多賀城南門等復元及び周辺整備事業調整状況中間報告 概要版

平成29年8月

1 調査・検討の経緯及び今後の取扱い

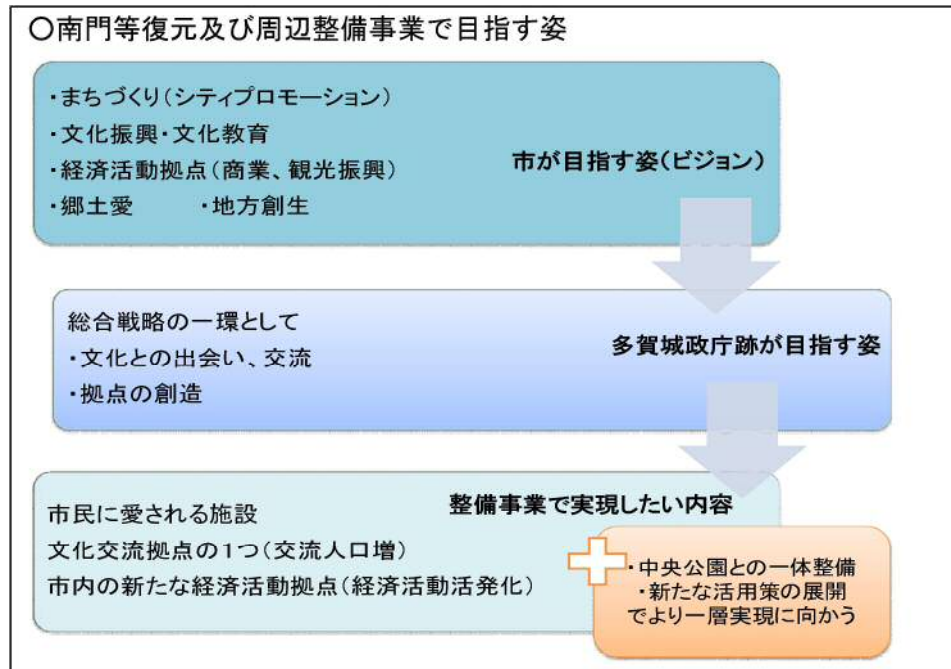
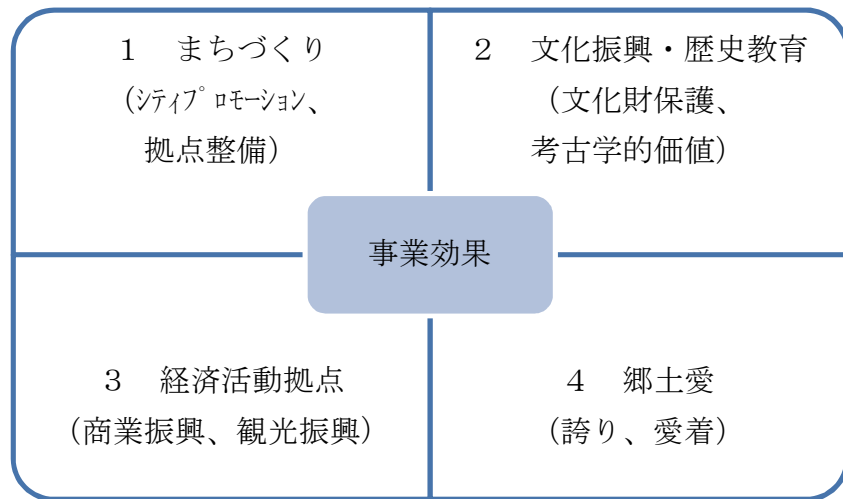
多賀城南門等復元整備事業については、平成27年度及び平成28年度に実施設計を行い、その概要は平成29年5月30日の全員協議会で説明したところです。

この多賀城南門復元整備事業の実施設計を受けて、当該整備事業と併せて整備することとなる周辺施設の整備事業を含めたスケジュール等について、庁内で多面的に調査検討した結果を資料4-2のとおり報告書として取りまとめました。

この報告書では、施工期間等の方向性について、3つの案を提示しておりますが、今後は、この3つの案をベースにして、市議会からの御意見を踏まえ、さらなる検討を行う予定です。

2 整備事業の目的・効果

No.	概要	備考 (掲載頁)
ポイント①	期待される役割「まちづくり」「文化振興・歴史教育」「経済活動拠点」「郷土愛」	8~11
ポイント②	「中央公園との一体的整備」「新たな活用策の展開」	10



3 事業を実施するため諸条件・課題

No.	概要	備考 (掲載頁)
ポイント①	今後の維持管理費用の増加	17
ポイント②	市の財政事情(他事業費縮減、史跡のまち基金の活用方法含む。)	17、23
ポイント③	補助金の動向と採択率に応じた事業調整	18、23
ポイント④	復元される南門単体では期待する効果(特に経済的効果)が乏しい	27
ポイント⑤	担当部署への職員加配など庁内の実施体制の強化	21
ポイント⑥	先行事業の選択	23
ポイント⑦	現状変更や建物建築における法令上の制限	24~26

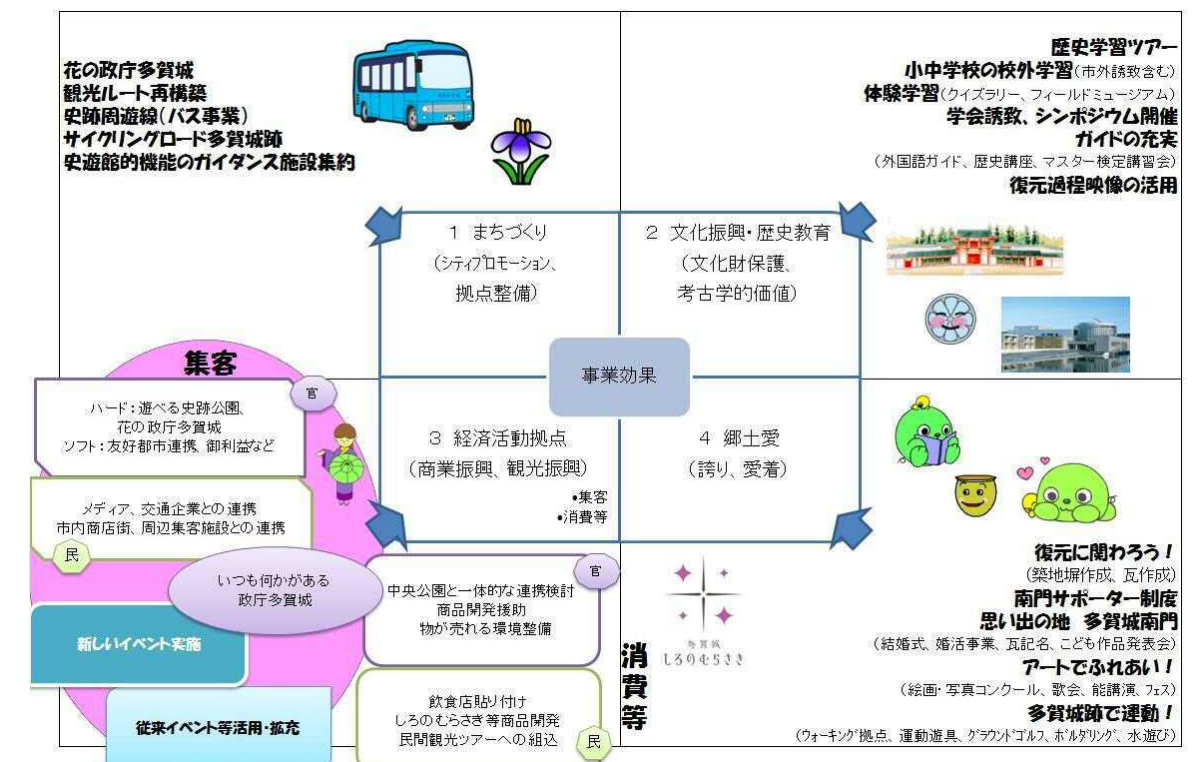
〇実施判断に当たり比較考慮すべき事項



4 活用策検討

復元する南門単体だけでは期待する事業効果が十分とはいえないことは、前述のとおりです。特に経済的影響については、創意工夫を行わないと、一定の効果が生まれません。

当該施設の利活用や周辺施設との連携によって、事業効果を大きくする必要があります。



※上記は、イメージであり、実施が担保されたものではない。

5 施工期間案

事業実施に関する案は、次の3案といたしました。

なお、これらの施工期間案については、今後も実施に当たっての諸条件により施工内容等が変化するものであり、相当程度考えられること及び南門復元以外の事業費は概算です。そのため、当該報告においては、概ねの時期、概算予算額を示すものであって、予算の担保ではないことに留意が必要です。

案1 南門等復元完成を創建1300年(平成36年)とするもの

案2 南門等復元建築工事開始を創建1300年(平成36年)とするもの

案3 無期延期(中止含む。)とするもの



案1 南門等復元完成を創建1300年(平成36年)とするもの

No.	概要
メリット	各種計画との整合が図られ、観光資源の1つとして位置付けられる。 創建1300年の目玉事業として位置付けられる。
リスク	他の事業の歳出削減が必須(H29~H35で約10億5千万円を一般財源から捻出) 新たな活用策(ハード・ソフト)検討・実施のための予算と人員が必要となる。
費用関係	特徴: 短期間に集中しての財政出動 H29~H35 事業費見込み 2,570,729 千円 (うち一般財源 1,053,166 千円)
詳細	資料4-3図1

案2 南門等復元建築工事開始を創建1300年(平成36年)とするもの

No.	概要
メリット	(案1)と同様のメリットがあるほか、年度ごとの工事を平準化できる。 復興事業や庁舎耐震化事業後に南門等復元に本格着手できる。
リスク	(案1)と比べ完成時の注目度が下がる。
費用関係	特徴: 事業費平準化 H29~H35 事業費見込み 2,107,388 千円 (うち一般財源 821,495 千円)
詳細	資料4-3図2

案3 無期延期(中止含む。)とするもの

時期をみて実施有無を含めスケジュールを再検討

当面は、事業を見送りとし、復興事業、多賀城市公共施設等総合管理計画に基づく老朽化対応工事等の大型事業が落ち着いた後に再検討するものです。

No.	概要
メリット	当面の財政負担が軽減できる(無期延期)。 財政負担がなくなる上、史跡のまち基金を復元事業以外に充てることができる(中止)。
リスク	無期延期(中止)にかかる各種計画との整合性や関係機関への説明責任が生じる。 南門復元を前提として実施した事業の補助金返還や現状復旧を求められる可能性がある。
費用関係	特徴: 当面の財政負担は大幅に縮減 H29~H35 事業費見込み 532,303 千円 (うち一般財源 33,951 千円)